

西田－高橋論争と東北帝国大学

野家啓一（東北大学名誉教授）

西田幾多郎が『善の研究』を刊行した翌年（1912）、東京帝大の大学院生であった高橋里美は『哲学雑誌』に「意識現象の事実とその意味」を発表して西田の主張を批判し、西田も直ちに「高橋（里美）文学士の拙著『善の研究』に対する批評に答う」を書いてその批判に応じた。これはわが国の哲学界で最初の本格的な哲学論争と言うべきものであり、その内容を検討することにより、近代日本哲学の出発点を確認したい。他方で東北帝国大学理科大学（理学部）は初代総長澤柳政太郎の肝煎りで「科学概論（科学哲学）」の初代担当講師として田辺元を招聘し、この講座はその後高橋里美、三宅剛一らに引き継がれた。わが国における「科学哲学」の濫觴である。時間が許せば、全国で初めて女性の入学を許可した東北帝大を卒業してフライブルク大学に留学したわが国最初の女性哲学者高橋ふみ（西田幾多郎の姪）の業績についても触れたい。